

## コロナ禍の民泊、活用模索 宴会場として、スポーツ合宿誘致

10/28 05:00



札幌の民泊で行われた「泊飲み」体験会。リビングのテレビ画面には友人たちの宴会の様子も。通信機器が完備され、リモート飲み会も可能だ

新型コロナウイルスの感染拡大で、利用の7割程度を占めていた外国人客が姿を消し、大打撃を受けている民泊事業者が新たな施設活用策を模索している。食べ物や酒を取り寄せて飲み会を楽しんでもらう「泊飲み」を売り出すほか、スポーツ合宿の誘致を計画する施設も。外国人客中心で、宿泊に特化していた民泊施設がコロナ禍で変わろうとしている。

「かんぱーい」。21日に札幌市内のおしゃれな家具が並ぶ3LDKの民泊施設で行われた「泊

飲み」の体験会。6人がすしや焼き鳥が並ぶテーブルを囲み、楽しそうにグラスを傾けた。

企画したのは札幌を中心に約150室を運営する「TAKE」（札幌）。コロナ禍で不特定多数の人が集まる飲食店の利用を敬遠する人が多く、1室貸しの民泊を宴会場として使うニーズがあるとみて考案した。

飲食店や酒店から取り寄せる食事や飲み物を提供し、片付け不要で宿泊もできる。「洗い物もしなくていいので、自宅より楽」などと好評だったため、23日から予約受け付けを始めた。

国の「Go To Travel」と札幌市の助成金を活用し、後日のキャッシュバックを含めると、実質1人3800円で利用できる。施設によって2～5人以上の利用など条件があるが、いずれも同額という。

道は感染リスクの高い会合の自粛などを要請する「ステージ2」への移行を28日にも表明するが、同社の武山真路会長は「関係者だけが集まることができ、広々とした室内で密も避けられる。よりニーズが高まるのではないかと話す。

道内の民泊施設はコロナ禍の影響で廃業が相次ぎ、4月の2991施設から10月7日時点で2407施設に激減。民泊の利用自体も減る中、札幌市内で30室を運営する富樫建太さん（41）は新たにスポーツ合宿の誘致を計画する。

チーム合宿のほか、近年はマラソンなどでどこのチームにも所属せず、企業とスポンサー契約を結ぶ個人の選手が増えていることに着目。宿泊代がホテルに比べて安く、自炊可能な点も合宿向きと判断した。

マラソン競技を続ける富樫さんは、今年の年末から1カ月ほど沖縄の民泊で合宿を体験し、自身の施設でのプランづくりに役立て、年明け以降に売り出す計画だ。「さまざまな活用法が出てきて、民泊の良さを知ってもらえるきっかけになれば」と話している。（徳永仁）